佳作

おともだちのやさしさ

栃木県　栃木市立吹上小学校一年　芳賀　奏太

ぼくは、小学校にはいるまえまでは、ふつうにあるいて、ふつうにはしって、ふつうのせいかつをしていました。

しかし、三月ごろきゅうにあしがいたくなって、きがつくとあしをひきずってあるいていました。ぼくは、すぐになおるとおもっていたので、なにもいわないでふつうにしていました。でも、なかなかあしのいたみがなおらなくて、びょういんにつれていってもらいました。はじめていったときは、シップをもらってきただけでした。

そして、にゅう学しきになりました。ぼくは、ランドセルをしょってあるいて学校にいきました。ぼくは、みんなとおなじようちえんじゃなかったので、はじめてあった人ばかりで、とてもきんちょうしていました。

これから、たくさんあそんでなかよくなりたいなとおもいながらかえったけど、またあしがいたくなってしまいました。

にゅう学しきのふつかごに大きいびょういんにいきました。そこのせんせいには、

「あしたからにゅういんしてください。」

といわれました。学校にいきはじめたばかりだったので、とてもかなしいきもちになりました。

にゅういんしているときは、じかんがゆっくりながれていました。ごはんやおやつもでたけど、ぜんぜんうれしくないし、おいしくもかんじなかったです。まいにちおかあさんがきてくれたけど、なんですぐにかえるのかなとおもったり、なにをやってもたのしくないし、テレビもつまらなかったです。

やっと、二しゅうかんがたち、たいいんすることができました。ふつうにあるけないので、くるまいすがようういされていました。

つぎのひに、どきどきしながら学校にいきました。まだ二かいしかあったことがないクラスのみんなが、ぼくのまわりにあつまってきてくれました。ぼくは、まだみんなのなまえがわからないのに、ぼくのなまえをよんでくれて、いろいろおしえてくれたりてつだってくれました。

でも、そのひは、まだかなしいきもちがのこっていて、すなおによろこべなかったです。

だんだん学校がたのしくなってきたのは、みんながぼくにやさしくしてくれたおかげです。いまでは、みんなのなまえもおぼえたし、じぶんでできることをふやしています。

つぎは、みんながこまっていたら、ぼくができることをやってあげたいとおもいます。